

M I O S U J I みおすじ

第14号

発行 愛知県立三谷水産高等学校同窓会
〒443-0021 愛知県蒲郡市三谷町水神町通2-1
TEL.0533-69-2265 FAX.0533-67-7699

同窓会会長を引き受けて

同窓会長 鎌田 篤司



本年1月3日(月)の三谷水産同窓会において、山本光男会長、小林俊雄三谷漁協組合長、林哲司副会長等役員並びに総会出席者の御同意を得て、同校同窓会会長に推挙されました。

私は同校を、東京オリンピックがアジアの地において初めて開催をされた、昭和39年度の4月6日(月)に入学を致しました。3年生になった昭和41年4月24日(日)三谷魚市場において完工

式をすまして処女航海に船出した「二代目日吉丸(220トン)」で遠洋航海実習をし、昭和42年3月3日(金)に卒業を致しました。この三年間は私の青春そのものであり、その後の人生をほとんど決定づけたと言っても過言ではありません。

三谷水高は、水産講習所として昭和15年に開講以来65年の間には、第二次世界大戦、13号台風、伊勢湾台風等々の、人的・自然的な数多くの困難も何とか先人の知恵と努力で無事に乗り切ってまいりました。

昭和23年4月からは学制改編により、愛知県立三谷水産高等学校と改称されました。因みに私は、昭和23年生まれです。因らずも三谷水高としての歴史と私の生涯はリンクしている事となります。昭和39年に「漁業科・製造科・増殖科・機関科・無線通信科」の五学科が揃いました。平成2年に遠洋漁業実習船「愛知丸(450トン)」完工。平成5

年4月、初の女生徒2名増殖科へ入学。平成6年4月制服の変更。平成11年学科改編により「海洋科学科(海洋漁業科コース・海洋工学コース)、水産食品科、海洋資源科(栽培漁業コース・海洋環境コース)、情報通信科」の4科6コースとなりました。

近年全国水産・海洋高校は、次々に縮小合併される等の諸問題もありますが、私が今回同窓会長に推されたのは、まず老朽化をしている「愛知丸」の代船「三代目愛知丸」の建造を進める事が唯一無比の理由だと思います。

先程書いたように、三谷水高を取り巻く環境は、順風満帆とは言いがたいものがありますが、伊藤新校長の協力と高橋・佐藤両副会長、三谷水校卒業の同高教員の方々を始め、素晴らしいスタッフが揃っていますので、必ずや正しい対応が出来ると自信を持っています。が、何を置いても同窓会会員の方々に万全のご協力をお願いするばかりであります。

共通する青春の熱き思いや今の三谷水高の事を語り合う機会として、来年も1月3日(火)、蒲郡の「ホテル竹島」で三谷水高の同窓会総会及び懇親会を開催致しますので、会員皆様多数のご参加をお待ちしております。

まずは、三谷水産高等学校と同校同窓会の発展と、7200有余の会員皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新会長としての挨拶とさせていただきます。

「追伸」

本年の同窓会において、病気を患って見事な議長役をこなしてくれた、同窓会副会長の林哲司氏が、2月12日(土)にお亡くなりになりました。同窓会にとっても誠に残念でなりません。唯々、ご冥福をお祈りするばかりです。(合掌)

世界に発信する三谷水産を目指して

校長 伊藤 美保

同窓会の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は本校教育並びに本校発展に対しまして、ご理解とご協力・ご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、私儀、本年四月に愛知県立起工業高等学校から転勤して参りました。愛知県尾張地方の工業高校しか経験がない者が、三河地方で、しかも門外漢の水産高校に就任ということで、かなり戸惑いました。現在は素晴らしい同窓会やPTAの皆さま・教職員に恵まれて、少し慣れてまいりました。しかし、県下唯一の水産高校の特色ある・魅力ある教育を目下勉強中であります。

もともと海への憧れがあり、船が好きで、退職したら豪華客船で世界一周ができればいいなあ、というのが夢でした。ところが、期せずして愛知丸にも、あおしおにも乗船できましたし、夢ではなく現実的になってきたことに心躍り、ワクワクしております。

ところで、校門を入ってすぐの所に灯台があるのには「さすが水産高校」と思った次第です。同窓会の皆さまの母校が母港であるシンボルなのかと感心いたしました。在校生もいずれ同窓会会員になるわけですが、同窓会の皆さまのご活躍に触れて、是非母校が母港になる教育をしなければなら

いなと身が引き締まる思いをいたしました。

今年度は、愛知丸の代船建造の設計年度であります。この代船建造については、同窓会の皆さまには非常にご尽力をいただいたと伺っております。重ねて御礼申し上げます。300トン未満、定員50名と今の愛知丸に比べて少し小さくなりますが、19年度建造に向けて、何とか立派な実習船になるよう努力しているところで

す。「環境の万博」から「環境の愛知」にふさわしい環境にやさしい船、女子生徒も長期航海できる船、今年ハワイ大学・名古屋港水族館と提携して、ウミガメ40匹を乗せてハワイ沖で放流し、漂流調査をするなど、世界に発信する船をコンセプトに、電気推進式エンジン搭載等を検討してまいりましたが、結局従来型エンジンで、生徒・乗組員の居住性を追求する、乗組員削減を補う装備を施すなどの検討をして設計に取り掛かっています。漁業実習も生徒に達成

